広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	現代ギリシア民衆歌謡のもつ特質の考察 ： ミキス・テオドラキス音楽劇「死んだ兄弟の歌」より〈研究ノート〉
Author(s)	土居本，稔
Citation	プロピレア , 20 : 15 - 29
Issue Date	2014-08-31
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00039089
Right	Copyright (c) 2014 日本ギリシア語ギリシア文学会
Relation	

現代ギリシア民衆歌謡のもつ特質の考察 —

ミキス・テオドラキス音楽劇「死んだ兄弟の歌」より

土居本　稔

はじめに

2004 年夏のアテネ・オリンピックの開会式で、オリンピック旗が入場して来たときに演奏された曲の名前をご存知の方はどれだけおられるだろうか。それはミキス・テオドラキスが 1962 年に発表した音楽劇「死んだ兄弟の歌」のために作詞作曲した九つの歌のうちのひとつ、「果樹園の中で」である。

開会式のアトラクションでは映画「その男ゾルバ」のテーマ曲も演奏された。こちらの方がテオドラキスの作品として有名なので気付いた方も多いはずだが、オリンピックの精神を体現するオリンピック旗の入場・掲揚の際の伴奏音楽としてこの曲を選択したことはそれなりの意味があったのだろう。開会式の音楽総監督は、重鎮の作曲家スタブロス・クサルハコスであった。

1925 年生まれ（今年 89 歳）のギリシアの作曲家ミキス・テオドラキスを、日本で最初に本格的に紹介したのはフランス現代思想研究者の杉村昌昭である。杉村は、西村徹とともにテオドラキスの「抵抗の日記」という著書の仏語からの重訳を行なっている（河出書房新社、1975 年）。また、杉村は「音楽芸術」1975 年 6 月号と「解放教育」1975 年 9 月号でテオドラキスについて紹介している。

1. 作曲家ミキス・テオドラキスの素描

「解放教育」1975 年 9 月号、「作曲家ミキス・テオドラキスと現代ギリシアの文化革命」杉村昌昭、よりミキス・テオドラキスの全体像を簡潔な文章でみてみよう。

ギリシアの詩人ヤニス・リツォスが1936年につくった「墓碑銘（エピタフィオス）」という連作詩（これは36年5月、ギリシア北部のテッサロニキにおけるデモ行進が、警官隊・憲兵隊との衝突で多数の死傷者がでた折、「息子を殺された母親の嘆き」をうたった詩である）のうちの八編にテオドラキスは曲をつけ、これが一挙に彼の名声を確立したのである。しかも、それは民衆の心を明確に表現したギリシアの土着性濃厚な曲だった。そして、この作曲は、それまでクラシック音楽の作曲に専念していたテオドラキスにとって、［留学先のパリから－筆者注］ギリシアに戻って民衆との対話を復活するきっかけになった。（中略）

60年に同じくギリシアの作曲家ハジダキス（映画「日曜はダメよ」の音楽で有名）が、テオドラキス作曲の「墓碑銘」を演奏録音し［ナナ・ムスクーリ歌－筆者注］、そのレコードは爆発的大ヒットとなった。しかしテオドラキスは、この演奏（洗練されすぎ、ギリシアの土着性と民衆エネルギーの表現が欠落していた）に満足せず、自らオーケストラを編成して、ギリシア特有の民族楽器ブズーキ（マンドリンに似た弦楽器）を主体にして、民衆の心を伝える土着性濃厚な演奏を行なった。［マリア・ファランドゥーリ、グリゴリス・ビスィコーツィス等の歌－筆者注］

この二つの演奏様式をめぐって、ギリシアのいたるところで、あらゆる機会に、「テオドラキス派」と「ハジダキス派」が対立したが、この音楽論争の裏には、実は30年代・40年代の深刻な政治抗争がひそんでいたのである。当時はまだパリに在ったテオドラキスは、ギリシアに戻ってこの闘争に参加し、祖国の解放と文化的蘇生のために一身を投げうつ決意をする。こうしてテオドラキスは、ギリシアに腰をすえて数多くの現代民衆歌謡を創作するかたわら、精力的な演奏活動を行いはじめる。

61年にテオドラキスが、ブズーキ・オーケストラを率いて国内演奏旅行をした時には当時のカラマンリス政府は、民衆の蜂起を恐れて、テオドラキスの行く先々で戒厳令を発したという。これ以後、ブズーキはテオドラキスの音楽の象徴となるが、この楽器にもまた、ギリシアの苦悩の歴史が深く刻み込まれている。そのことについて少し触れねばならない。

ブズーキは、中世ビザンチンのフレスコ画にも描かれている古い楽器である。そして、1820年代のギリシア独立戦争の際には、ギリシアの山岳パルチザンが自由と闘争の歌の伴奏に愛好した楽器としても知られる。しかし、その後、この楽器は長らく闇に葬られる。そして、もっぱらトルコの娼窟で使用されたといわれている。1922年、トルコとの領地争いに敗北した小アジアのギリシア人植民者たちが、ブズーキをギリシア本土に持ち帰るが、この楽器は、以後もっぱら、ならず者や阿片常用者の出入りする怪しげな酒場で演奏されたという。いわば魔窟の楽器になったというわけである。

しかし、それは単なるブルジョア趣味の魔窟ではなかった。そこは、メタクサス独裁(1936-40)、レジスタンス(1940-45)、内戦(1946-49)、そして戦後と、非常に混乱したギリシアの歴史に疎外された民衆の苦悩の吹きだまりだったのである。事実、しいたげられた民衆の微妙な心のヒダを伝える多くの歌が、ブズーキの調べに託され、歌いつがれていたのである［これらの歌はレベティカといわれる－筆者注］。だからこそ、ブルジョアジーは

ブズーキを嫌悪し、元来が宿敵トルコ起源の楽器だという理由で長らく闇に葬っていたのだった。

ところで、このブズーキを魔窟から引き出した功績は、先に触れたテオドラキスの好敵手ハジダキスに帰せられる。ハジダキスは 1950 年頃からブズーキ音楽を創作しはじめた。かれの作曲した魅惑的音楽はブルジョアジーがブズーキに酔いしれるきっかけを与えた。ハジダキスによって、ブルジョアジーはブズーキを知り、これを許容するようになったのである。が、しかし、彼らがブズーキに魅かれたのは、民衆の心を理解したいがためではなかった。アメリカ式のナイトクラブで演奏する軽音楽の中にブズーキを取り込み、単なる鑑賞用の楽器として流行させるためであった。

そこでは、ブズーキは本来の荒けずりな調子、にがみを含んだ音色を失い軽薄で安易な輸入音楽の道連れにされたのである。いわば、ブズーキは異邦語を奏ではじめたというわけなのだ。そして、その異邦語を奏ではじめたブズーキに、本来の音色と性格を取り戻させたのがミキス・テオドラキスだった。

ギリシアの国民詩人リツォスの詩をブズーキの調べにのせたことは一つの革命であった。左翼の批評家たちでさえ、これを退廃した社会層の表現、堕落のイメージを喚起するもの、大衆を腐敗させるペシミズムの浸透に一役買うものだと言って非難した。右翼国粋主義者たちが、ギリシアの詩とトルコの楽器を結合させることなど冒瀆行為だと憤慨したことはいうまでもない。

しかし、青年たちはただちに、テオドラキス支持の立場にまわった。テオドラキスは青年たちを前にして講演し、ギリシア独立戦争の英雄たちがつくった詩のなかにブズーキが現れること、当時のパルチザンの指導者マクリヤニスはブズーキを好んで演奏したことなどを語り、さらに「楽器を道徳に結びつけ、そこに堕落の手段を見るなどということは馬鹿げた冗談、非常識以外の何者でもない。ナイフを使って、人殺しもできればパンを切ることもできるのだ」と反論した。

かくしてテオドラキスは、しいたげられたギリシア人民大衆の歴史総体を現在に結びつけ、祖国を外国勢力のくびきから解放するための果敢な変革運動を開始することになる。

（中略）

テオドラキスはまた、祖国ギリシアの偉大な詩人たちの作品に曲をつけ、常に外国勢力の横暴にしいたげられてきたギリシアの民衆の愛国心をおおいに昂揚した。偉大な詩人たちの言葉は時に難解だったが（たとえばノーベル文学賞を受賞した G・セフェリス）、テオドラキス作曲の、民衆の魂に根ざした親しみやすいメロディにのせられると、誰しもが口ずさみ、その内容を理解するようになったといわれている。　（以上）

2.「テオドラキス学」へのアプローチ

テオドラキスの政治的立場は「抵抗の日記」に記されたように、1967 年から

の軍事独裁政権下の投獄・流刑の時期を含めて一貫した左翼と見られがちだが、後年 1990 年、保守党（ND）内閣の無任所大臣にも就任したので、彼の音楽芸術と政治的立場の変遷との関係を作品に照らし合わせて研究する必要がある。

テオドラキスの作曲した作品を理解することはとりもなおさず、曲を付けたセフェリス、エリティス、リツォス、ガッツォス、アナグノスタキス等の詩人やカザンザキス、カンバネリスらの作品を正しく解釈し理解することにつながる。

テオドラキスの作曲の手法と、政治的立場との関係、現代文学（とくに現代詩）との関係を研究することは音楽・言語芸術と政治性、民族・伝統芸術との関連性というような多面的なアプローチをすることが欠かせない。現代ギリシア社会・政治に及ぼしてきた彼の影響の大きさを考慮すれば、このような研究が必須であり大変な労力の要る作業となろう。

テオドラキスが主張するように、特権階級によって生み出された、特権階級のための音楽とは正反対の方向性を持つ芸術を生み出そうとした視点を外さないことがこの研究にとって重要と考える。特権階級とはクラッシク音楽時代の世襲的な身分のみならず、いわゆる学識・教養を独占してきた人びとも含む。高度な文学作品を読めない民衆に対して、聴けば分かる伝統音楽のメロディと歌謡でこれら詩人・作家の言葉を表現し伝えようとした。

テオドラキスを理解するには、現代ギリシア政治（戦後の左右両派の政治対立、軍事独裁）、民衆音楽（レベティカ音楽、ギリシア民族舞踊、ビザンチン音楽、グレゴリオ聖歌、トルコ音楽、西洋音楽の影響）、現代ギリシア文学（とくに二人のノーベル賞詩人を含む詩人達）、それぞれに対する知識と理解が必要である。この音楽、文学、政治の合わさった営為の究明過程は「テオドラキス学」と呼べそうである。

3. 音楽劇「死んだ兄弟の歌」の五編の歌詞の試訳

この研究ノートでは、音楽劇「死んだ兄弟の歌」の執筆の時代的政治的背景を明らかにすることと作品の九編の歌詞から、テオドラキスの作詞した五編を選んで試訳を行った。これら五編の歌を選んだ基準は、この劇の主題をよく表している点と、筆者が気に入ったメロディであるからである。劇中で歌われる九つの歌は、① Απρίλης, ② Το όνειρο, ③ Η Αλυσίδα, ④ Κοιμήσου αγγελούδι μου, ⑤ Ένα δειλινό, ⑥ Προδομένη αγάπη, ⑦ Τον Παύλο και τον Νικολιό, ⑧

Στα περβόλια, ⑨ Δοξαστικό, である。この内、①、②、⑤、⑦、⑧を選んで試訳を行った。これらの曲はどれも単独で人気歌手により現在までギリシアで歌い継がれている。

3-1. 音楽劇「死んだ兄弟の歌」創作の時代背景とあらすじ

ギリシアは 1940-1944 にドイツ・イタリアの占領とその後の解放の後、1946-1949 に左右両派、つまり解放運動功労者の共産主義者と米英の支援を受けた右派によるギリシア内戦を経験した。この内戦時の市民間の衝突を二人の兄弟、左派のパブロスと右派のアンドレアス、そしてこの兄弟の母親をギリシアに喩えて、戦後ギリシアの具体的なシンボル化を図った。背後に外国勢力が介在して、同胞の殺し合いに至った内戦時の悲劇を描いたが、両派の和解を主題としたので、民主左派連合（EDA）からこの作品はボイコットされた。

登場人物は、パパメルクーリウ家の父親がドイツ占領時代にドイツ兵により殺されて、母親と二人の息子が残された。左派のパブロス（20 才）と右派のアンドレアス（25-30 才）で、おのおのが信念に基づいて行動する。母親は彼らを和解させようと試みる。内戦中にアンドレアスは戦死する。パブロスは、恋人であるステファノウ家のイスメネ（18 才）に裏切られる。イスメネは、右派と戦った父親を助けるためだったが最後に殺される。この血まみれの戦いの主人公は母親である。別の家族の、母だけで父のいないニコリオス（20-25 才）は左派として登場し歌にも出てくる。両派が手を携えて団結しようという歌で終わる。

詳細は、“Music and Theater” Mikis Theodorakis、George Giannaris 訳にこの劇の英訳が収録されている。1962 年 10 月 15 日にアテネのカルータ劇場で初演された当時（グリゴリス・ビスィコーツィス歌）は左右両派から批難の声があがった。その後の政府の政治的思惑からテオドラキスの全ての作品を含めて上演禁止、レコードの所持さえ禁止になるが、この音楽劇は 1981 年、1999 年、2000 年と計 4 回上演され、その時々の有名歌手が歌った。

3-2. 歌曲のメロディの特徴

取り上げた五編のうち、「夢」、「ある夕方」、「パブロスとニコリオス」、「果樹園の中で」がギリシア民族舞踊のゼイベキコスのリズムに従い 9/8 拍子で

ある。「4 月」が 4/8 拍子である。米コーネル大学の比較文学の教授であり、テオドラキス研究家の Gail Holst は、「ある夕方」を例にとってレベティカで使用される共通の様式の D Minor（ニ短調）キーで書かれたメロディと歌詞との関係を詳述している。また、ゼイベキコスは、ギリシア民族舞踊の中で最も重々しく、情熱的で、内省的なリズムであり、歌詞と完全に合わせられると述べている。

音楽はまず聴いてみることであり、音楽を文字で表現することは本来するべきことではないかも知れないが、杉村昌昭の言葉を借りれば、テオドラキスの音楽は、「土着性を濃厚に含んだ魅惑的メロディ」であり、「アイデンティティ喪失の現代人にとって、自己の魂の根に遡行することを迫る何か不思議な魅力を秘めている」のである。テオドラキスの半生記を書いたジャック・クバールの「彼の音楽にはタイムとジャスミンの香り、松脂入りワインと串焼きマトンの香りがする」との表現もあった。筆者は「ギリシア民衆歌謡は物悲しいが、とても美しいメロディにオリエンタル風の繊細・複雑なリズムの合わさったハイブリッド音楽」と表現しておく。テオドラキスの曲にはさらに物語性・メッセージ性が色濃く出てくる。

3-3. 翻訳上の注意点

Gail Holst 及び、“Music and Theater” Mikis Theodorakis の訳者である George Giannaris の二人の英訳文を参照しつつ、ギリシア語原文の和訳を行なった。原詩は、テオドラキスの ΜΙΚΗΣ ΘΕΟΔΩΡΑΚΗΣ, Μελοποιημένη Ποίηση ΤΟΜΟΣ Α ΤΡΑΓΟΥΔΙΑ ύψιλον/βιβλία 1997 から引用した。（ただし、単一アクセント記号とした）。訳語が適切かどうか、また歌詞の日本語としてこなれていないかも知れないので、読者の批評を待ちたい。

3-4. 五編の歌詞の試訳

ΤΟ ΤΡΑΓΟΥΔΙ ΤΟΥ ΝΕΚΡΟΥ ΑΔΕΛΦΟΥ :
「死んだ兄弟の歌」

ΑΠΡΙΛΗΣ

Απρίλη μου ξανθέ

και Μάη μυρωδάτε
καρδιά μου πώς αντέχεις
μέσα στην τόση αγάπη
και στις τόσες ομορφιές.

Γιομίζει η γειτονιά
τραγούδια και φιλιά
την κοπελιά μου τη λένε Λενιώ
μα το΄χω μυστικό.

Αστέρι μου χλωμό
του φεγγαριού αχτίδα
στο γαϊτανόφρυδό σου
κρεμάστηκε η καρδιά μου
σαν το πουλάκι στο ξόβεργο.

Λουλούδι μου, λουλούδι μυριστό
και ρόδο μυρωδάτο
στη μάνα σου θα΄ρθω
να πάρω την ευχή της
και το ταίρι π΄αγαπώ.

4 月

わたしの晴れた４月と風薫る５月
胸のときめきにあなたはどうして堪えられようか
とても多くの愛とこの上もない美しさのなかで。

まわりは歌とキスにあふれている
彼女の名前はレニオというのだ
でも、それは秘密だ。

わたしの青白い星、わたしの月光
わたしの心はあなたの優美な眉に
ぶら下がっている
まるで鳥もちを塗った枝から吊り下がった
小鳥のように。

わたしの花、かぐわしい花、いい香りのバラ
わたしはあなたの母親のところにゆき
許してもらい、愛する彼女に会う。

TO ONEIPO

Δυο γιους είχες μανούλα μου
δυο δέντρα, δυο ποτάμια
δυο κάστρα βενετσιάνικα
δυο δυόσμους, δυο λαχτάρες.

Ένας για την Ανατολή
κι ο άλλος για τη Δύση
και συ στη μέση μοναχή
μιλάς, ρωτάς τον Ήλιο.

– Ήλιε, που βλέπεις τα βουνά,
που βλέπεις τα ποτάμια
οπού θωρείς τα πάθη μας
και τις φτωχές μανούλες,

Αν δεις τον Παύλο φώναξε
και τον Αντρέα πες μου.
Μ'έναν καημό τ'ανάστησα
μ'ένα λυγμό τα εγέννα.

Μα εκείνοι αφήνουνε βουνά,
διαβαίνουνε ποτάμια.
Ένας τον άλλο ψάχνουνε
για ν'αλληλοσφαγούνε.

Και κει στο πιο ψηλό βουνό,
στην πιο ψηλή ραχούλα
σιμά κοντά πλαγιάζουνε
κι όνειρο ίδιο βλέπουν.

Στης μάνας τρέχουνε κι οι δυο
το νεκρικό κρεβάτι
μαζί τα χέρια δίνουνε
της κλείνουνε τα μάτια

και τα μαχαίρια μπήγουνε
βαθιά μέσα στο χώμα
κι απέκει ανέβλυσε νερό
να πιεις, να ξεδιψάσεις.

夢

お母さん、あなたには二人の息子がいた
二本の木、二本の河、ふたつのベネチアの城、
ふたつのミントの茂み、ふたつの切なさ。

ひとりは東へ向かった
もうひとりは西へ
そして、あなたは彼らのあいだで
ひとりぼっち
太陽に話しかけて、訊ねてみて。

— 太陽よ、どこでその山々が見えるのか、
どこでその河が見えるのか
わたしたちの苦難と哀れな母親達が
見えたらどこででも、

もしパブロスを見かけたら、わたしを呼んでくれ
もしアンドレアスを見かけたら、わたしに言ってくれ。
わたしは非常な悲しみで彼らをわれに返らせ
すすり泣いて彼らをあきあきさせる。

でも彼らは山をあとにして、
河を渡る。
おのおのが他方を探し求め
お互い死に至るまで戦う。

そして最も高い頂きまで、
最も高い尾根まで登り
お互いのそばに横たわり
彼らは同じ夢を見る。

ふたりは臨終の母親のベッドに
駆けつけた
彼らはお互いに手に手を取って
彼女の目を閉じる

そして、彼らがナイフを地中深く
突き刺すと水が湧き出し
それを飲んであなたは乾きを癒す。

ΕΝΑ ΔΕΙΛΙΝΟ

Ένα δειλινό
σε δέσαν στο σταυρό.
Σου κάρφωσαν τα χέρια σου,
μου κάρφωσαν τα σπλάχνα,
Σου δέσανε τα μάτια σου,
μου δέσαν την ψυχή μου.

Ένα δειλινό
με τσάκισαν στα δυο.
Μου κλέψανε την όραση
μου πήραν την αφή μου
μόν΄μου ΄μεινε η ακοή
να σ΄αγροικώ παιδί μου.

Ένα δειλινό
ωσάν τον σταυραετό.
χίμηξε πα στις θάλασσες,
χίμηξε πα στους κάμπους,
κάμε ν΄ανθίσουν τα βουνά
και να χαρούν οι ανθρώποι.

ある夕方

ある夕方
彼らはあなたを十字架に磔つけた。
彼らはあなたの手に釘を打って、
彼らはわたしのはらわたに釘を打ち込んで、
彼らはあなたを目隠しして、
彼らはわたしの魂を束縛した。

ある夕方
彼らはわたしをふたつに引き裂いた。
彼らはわたしから視覚を奪った
彼らはわたしの触覚を取り去った
彼らはわたしの聴覚だけを残した
だから、わたしには聞こえる、息子よ。

ある夕方
イヌワシのように。
海の上を舞い上がり、
平原の上を舞い上がり、
山々の花を満開にして
人びとを喜ばせる。

ΤΟΝ ΠΑΥΛΟ ΚΑΙ ΤΟ ΝΙΚΟΛΙΟ

Τον Παύλο και τον Νικολιό
τους πάνε για ταξίδι
με βάρκα δίχως άρμενα,
με πλοίο δίχως ξάρτια.

Τ΄άρμενα τα ΄καψε φωτιά,
τα ξάρτια καταιγίδα
και το ταξίδι θάνατος,
που γυρισμό δεν έχει.

Του Παύλου και του Νικολιού
οι μάνες παν αντάμα

ρωτούν το χώμα να τους πει
και κείνο στάζει αίμα.

Δεν είναι αναστεναγμός
που βγαίνει απ΄το χώμα
μόνο πηγή λαχταριστή,
να πιεις να ξεδιψάσεις

パブロスとニコリオス

かれらはパブロスとニコリオスを
航海に連れ出す
帆のないボートで、
マストもない船で。

火事で帆は焼失し、
嵐でマストは失われた
それは死の旅であり、
戻ることはない。

パブロスとニコリオスの
母親たちは一緒に出てゆく
彼女たちは大地に言ってくれと頼む
大地は血を滴らせる。

それは大地からわき起こるため息ではない、
あなたが飲んで乾きを癒す新鮮な泉にすぎない

ΣΤΑ ΠΕΡΒΟΛΙΑ

Στα περβόλια,
μες στους ανθισμένους κήπους
σαν άλλοτε θα στήσουμε χορό
και το Χάρο θα καλέσουμε
να πιούμε αντάμα
και να τραγουδήσουμε μαζί.

Κράτα το κλαρίνο και το ζουρνά
κι εγώ θα΄ρθω
με το μικρό μου το μπαγλαμά.
Αχ! καί γώ θα΄ρθω.
Μες στης μάχης τη φωτιά με πήρες Χάρε
πάμε στα περβόλια για χορό.

Στα περβόλια,
μες στους ανθισμένους κήπους
αν σε πάρω, Χάρε, στο κρασί
αν σε πάρω στο χορό και στο τραγούδι
τότες χάρισέ μου μιας νυχτιάς ζωή.

Κράτα την καρδιά σου, μάνα γλυκιά
κι εγώ είμ΄ο γιος που γύρισε για μια
σου ματιά.
αχ! για μια ματιά...

Για το μέτωπο σαν έφυγα μανούλα
εσύ δεν ήρθες να με δεις.
Ξενοδούλευες
και πήρα μόνος μου το τραίνο
που με πήγε πέρ΄απ΄τη ζωή...

果樹園の中で

花の咲き乱れる果樹園の中で、
昔のように騒いで踊り
死神を招いて一緒に
酒を飲んで歌を唄おう。

クラリネットと縦笛を持ち出し、
わたしは小さなバグラマをもって来る
ああ、わたしも行く。
死神は、わたしを戦火のなかに連れ出した、
果樹園に行き踊ろう。

花の咲き乱れる果樹園の中で、
死神よ、もしわたしがワインで、踊りで、歌を唄うことで
おまえを打ち負かしてしまうなら、
そのとき一晩の命を与えてくれ。

元気を出してください、大好きなお母さん、
ひと目見ようと帰ってきた息子です。
ああ、ひと目だけです…

わたしが前線に向けて発ったとき、いとおしいお母さん、
あなたは会いに来てくれなかった。
あなたはそとで働いていて
わたしはひとりで汽車に乗った
そのとき、わたしは自分の人生から連れ去られた…

おわりに

今回は、テオドラキス「死んだ兄弟の歌」を取り上げた。今後は同じくテオドラキスが曲をつけたリツォス(詩集「墓碑銘」、「ロミオシーニ」)、アナグノスタキス(映画「セルピコ」のテーマ曲の原曲の作詞)、エリティス(詩集「アクシオン・エスティ」)、セフェリス(詩集「エピファニア」)、カザンザキス(映画「その男ゾルバ」)、カンバネリス(小説「マウトハウゼン」)、等の作品について、政治的な時代背景、歌詞と音楽の関係性を継続して研究し、より研究の精度を高めることを筆者の目標としている。その過程で、他の作曲家、ハジダキス、クサルハコスや、その前の世代のシンガーソングライターであるツィツァニスやバンバカリス等についても触れなければならないはずである。

参考文献

1) ΜΙΚΗΣ ΘΕΟΔΩΡΑΚΗΣ, ΟΙ ΔΡΟΜΟΙ ΤΟΥ ΑΡΧΑΓΓΕΛΟΥ Αυτοβιογραφία 1 - 5 ΚΕΔΡΟΣ 1986 -1995
2) ΜΙΚΗΣ ΘΕΟΔΩΡΑΚΗΣ, Μελοποιημένη Ποίηση, ΤΟΜΟΣ Α, ΤΡΑΓΟΥΔΙΑ. ύψιλον/βιβλία 1997

3) Ήλία Πετρόπουλου, ΡΕΜΠΕΤΙΚΑ ΤΡΑΓΟΥΔΙΑ, ΚΕΔΡΟΣ 1983
4) Γεώργιος Π. Μαλούχος, ΑΞΙΟΣ ΕΣΤΙ ΙΙ, ΛΙΒΑΝΗ 2005
5) "THEODORAKIS, Myth & Politics in Modern Greek Music" GAIL HOLST Adolf M. Hakkert – Publisher – Amsterdam 1980
6) "I HAD THREE LIVES Selected Poems of Mikis Theodorakis" Translated by GAIL HOLST-WARHAFT, Livani Publishing Organization, Athens 2004
7) "MUSIC AND THEATER" Mikis Theodorakis Translated by George Giannaris EFSTATHIADIS GROUP, Athens 1983
8) "Mikis Theodorakis, FINDING GREECE IN HIS MUSIC" Angelique Mouyis KERKYRA Publications SA, Athens 2010
9)「抵抗の日記」ミキス・テオドラキス 西村徹・杉村昌昭訳 河出書房新社 1975
10)「音楽芸術６」1975 杉村昌昭 寄稿文
ミキス・テオドラキス―「自由」と「抵抗」を歌う新ギリシャ民衆音楽の創造者―
11)「解放教育９」1975、明治図書出版、杉村昌昭、寄稿文
「作曲家ミキス・テオドラキスと現代ギリシャの文化革命」
12) リッツォス詩集「括弧」中井久夫訳、みすず書房、1991
13)「ギリシャ近現代史」リチャード・クロッグ、高久暁訳、新評論、1998
14) レコード・CD のラベル解説からの引用：
CD : Mikis Theodorakis EMI Remasters Vol.7 2003
ΤΟ ΤΡΑΓΟΥΔΙ ΤΟΥ ΝΕΚΡΟΥ ΑΔΕΛΦΟΥ - ΛΙΠΟΤΑΚΤΕΣ
ΠΟΙΗΣΗ:ΜΙΚΙΣ ΘΕΟΔΩΡΑΚΗΣ - ΓΙΑΝΝΗΣ ΘΕΟΔΩΡΑΚΗΣ
Σύνθεση 1960-61, Παρίσι
Τραγουδούν ο Γρηγόρης Μπιθικώτσης, η Βέρα Ζαβιτσιάνου και η Δέσποινα
Μπεμπεδέλη
15) 辞書：
Oxford Greek-English Learner's Dictionary D N Stavropoulos Oxford University Press 1988
現代ギリシア語辞典 ［第三版］ 川原拓雄 リーベル出版 2004

（注）参照文献の多くはヘルソネス書房（当時）の山口喜雄氏に入手の便宜を図って頂いた。